



Contemplations on winter Hailey Stutz

When I was in 11th grade, I composed a short piano piece(*) called “Winter Forlorn” for a class project incorporating the themes of *Ethan Frome* by Edith Wharton. In this novel, a lover’s suicide fails when, during an attempt to sled off of a cliff, a tree blocks their path, and the resulting collision cripples them for life. It’s a sullen reminder that tragedies can be written without death at their conclusions.

In this story, winter is used as a backdrop for tragedy, as it so often is. Winter represents sorrow, dying light, the perishing of beautiful things. Many people suffer in the darkness of winter, the long nights and unforgiving fridity an invitation to retreat inside of oneself.

Yet, amidst the reign of winter, I see restless Hokkaido come alive. I see its denizens shiver in anticipation, eager to descend its mountains on snowboards and skis. There is a flame within the people here, and with that warmth they greet the cold blasts of winter when the blizzard winds descend.

How wonderful, to not merely survive but to thrive in winter. May we all come alive though darkness falls.

【ちよつと豆知識】宮地晶子

piece (一片の) という言葉が出てきました。ここでは「曲」ですね。フライドチキン、ジグソーパズルなど日本語でもよく使います。人気のアニメ「ワンピース」は、「ひとつなぎの大秘宝」の意味だそうです。洋服のワンピースは和製英語。英語では a dress. a piece of cake は「ケーキ切れ」のことですが、英語では「楽勝！」の意味になります。

冬について思うこと ヘイリー・ストゥツ

高校3年生の時、学級の課題で短いピアノ曲を作曲しました。タイトルは「絶望の冬」。モチーフはイーディス・ウォートンの小説「イーサン・フローム」から取りました。この物語では、心中する恋人二人が滑り降りたそりは、がけの途中で立木が行く手をはばみ、二人は死にきれず一生障害を負います。物語の最後に人が死ななくても、悲劇が描けるという陰うつな例です。

よくあることですが、この悲劇の背景も冬です。冬は悲しみや消えゆく光、美しいものの死を表します。冬の暗さに苦しむ人は多く、長い夜や容赦ない寒さは心の引きこもりを誘います。

とはいえ私には北海道がそわそわして見えます。スノーボードやスキーで山を滑り降りたくて、うずうず期待に震える北海道の人々。目には炎が燃え、その熱さでブリザードの冷たい風を迎え撃つ。

ただやり過ごすのではなく、やりきる冬。なんて素晴らしいのでしょうか。暗い冬が来ても元気いっぱいいきましょう！

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第114回

暗唱の極意

NHK放送の朝の連続テレビ小説「マッサン」を見ていますか。エリー役のシャーロットさんが人気です。マッサンとの掛け合いが絶妙ですが、スタート前はまったく日本語を話せなかったとか。オーディションでは、緊張のあまり日本語のせりふを忘れ、英語と表情で乗り切りました。でも撮影が始まってからは、膨大な量のせりふを忘れることなくこなしています。そのやり方はまさしく語学習得の王道です。

まず、台本は日本語とその英訳が用意してあります。せりふはローマ字化して、その下に該当する英語の意味も書かれています。こうして意味も分かったうえで練習するから、自分の言葉として消化して演技ができるのでしょうか。今ではずいぶん日本語が分かるようです。

以前、テレビのトークショーに俳優の唐沢寿明さんが出ていました。芝居の宣伝です。司会者に長いせりふを覚えるコツを聞かれた唐沢さんは、こう答えていました。「3倍くらいの早口で練習します。逆にものすごくゆっくり言ったりもします。それから急に姿勢を変えてあちこち向いて言うことも」と。これも暗唱の極意ですね。

たかが暗記、されど暗記。中途半端だと、いざというときにど忘れしたり、文章が飛びます。それでは本当の役に立ちません。どんな状況でもスラスラ出てくるのが大事です。「意味の分かったものを完璧になるまで暗唱」「つまずいても口から勝手に英語がこぼれるくらいまで」。これが暗唱の極意でしょう。